

「保存」か「解体」か、「文化財保護」か「生活優先」か——。日本をはじめとする災害多発地域では、歴史的建造物をめぐるさまざまな危機的状況に遭遇する。保存や再生の現場でも、「維持」か「修理」か、「備える」か「しのぐ」か、あるいは「何を」「どのように」「どこに」残すかなど、じつに多くの悩ましい取捨選択が待ち構えている。

これらの〈ジレンマ〉は、歴代の災害を受けて研究者のあいだで議論されてきたものや、新たに浮き彫りとなったものなど多岐にわたる。しかし、総じて一般にはわかりづらく、見過ごされやすいものも少なくない。この〈ジレンマ〉を超えるための理念や技術とはいったい何か。過去の遺産を未来につなぐ最新の知恵を、都市・建築学の最前線から発信する。

* 開会挨拶

小林 淳 (日本建築学会東北支部長・秋田県立大学 教授)

* 建造物の保存・再生とその理念

「世界と日本の歴史的建造物保存——その歴史と課題」

足立裕司 (神戸大学 名誉教授)

「災害多発地域における建築物の保存・再生を通じた防災まちづくり」

大窪健之 (立命館大学 教授)

「歴史的建造物の保存・再生と情報アーカイブの意義・課題」

山口俊浩 (文化庁)

* 建造物の保存・再生とその技術

「オーセンティシティの確保と文化財建築の保存・再生」

長谷川直司 (建築研究所 建築生産研究グループ長)

「文化財建築の保存・再生に資する構造工学技術」

青木孝義 (名古屋市立大学 教授)

「文化財・文化財建築の保存・公開における環境調整技術」

小椋大輔 (京都大学 准教授)

* ディスカッション

司会：野村俊一 (東北大学 准教授)・高橋典之 (東北大学 准教授)

日時：10月29日(土) 13:00~16:00 (12:30開場)
**場所：せんだいメディアテーク
7階スタジオシアター**

定員：150名 (申込み先着順)

参加費：無料

主催：日本建築学会東北支部

申込み：<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>にてWEB申し込み

あるいは氏名・所属を明記のうえ 022-265-3405 までFAX

交通アクセス：

地下鉄：南北線勾当台公園駅下車、「公園2」出口から徒歩6分(約450メートル)。東西線大町西公園駅下車、「東1」出口または「西1」出口から徒歩13分。東西線青葉通一番町駅下車、「北1」出口から徒歩15分。バス：仙台市営バス 仙台駅前-60番(仙台TRビル前、地下鉄仙台駅「中央2」出口前)のりばから「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き(系統番号がJまたはXで始まるバス)で約10分、メディアテーク下車。徒歩：仙台駅より約20分(約1.8キロメートル)。タクシー：仙台駅西口タクシー乗り場から約7分。車：東北自動車道仙台宮城ICから約10分(約5.3キロメートル)。航空機：仙台空港アクセス鉄道・仙台空港駅から仙台駅まで約25分



日本建築学会東北支部「建築文化週間2016」
災害多発地域における建造物の保存・再生
〈ジレンマ〉を超えて